

本章では、特色ある県内の社会教育施設の取組事例を踏まえた上で、これからの時代に求められる社会教育施設の役割と、それを実現するために必要な方策について、公民館及び図書館を中心に提言をまとめることとする。なお、県立少年自然の家<sup>1</sup>の在り方については、第3章で述べることとする。

### 1 県内社会教育施設の現状と課題

#### (1) 県内社会教育施設の現状

本県には、平成30年10月現在、公民館257施設（類似施設を含む）、図書館35施設のほか、博物館や青少年教育施設等の社会教育施設<sup>1</sup>が存在する。社会教育施設は、地域住民に身近な施設として大きな強みを持ち、豊富な学習手法や学習領域の蓄積と貴重な教育財産を有し、地域住民が学び、つながる、地域における社会教育の拠点として機能している。

#### (2) 県内社会教育施設に係る課題

##### ① 多様な人々のニーズへの対応

- ・公民館においては、利用者が特定の人や年齢層に限定されている傾向があり、特に若い世代の利用が少ないことが課題となっている。
- ・全ての地域住民に開かれた施設として、障害者等の社会的困難を抱える人も利用しやすいプログラムや多様な人々への場の提供が求められている。

##### ② 多様な主体との連携・協働

- ・地域住民の多様な学習活動に対応するため、首長部局や教育機関、企業、NPO等の多様な主体との連携・協働の促進が課題となっている。
- ・公民館においては、高齢化や会員数の減少等が進む町内会や子ども会などの地域団体との連携の維持が課題となっている。
- ・地域と連携・協働した教育活動に関する各小・中学校間の情報共有や連携を一層進める必要がある。
- ・図書館においては、児童生徒の興味・関心に応じた学習活動の支援のため、学校との連携強化が課題となっている。

##### ③ 施設の利便性

- ・建築時期が古い施設が多く、老朽化やバリアフリー化、駐車場の確保等が課題となっている。
- ・図書館においては、対象とする地域が広域に及ぶため、遠方の地域へのサービスの提供が課題となっている。

<sup>1</sup> 社会教育調査（平成30年10月 文部科学省）

## 2 特色ある県内社会教育施設等の取組

青森県社会教育委員の会議では、社会教育施設における今後のより充実した取組の参考となるよう、地域住民の学習活動を支える特色ある取組を行っている県内の社会教育施設等について、実地調査を行った。以下に、それらの取組事例を紹介する。

【実地調査先一覧】 ※詳細は巻末資料（P41～）参照

### ○ 公民館

- ①青森市中央市民センター      ②青森市浪岡野沢公民館      ③五所川原市中央公民館
- ④六戸町中央公民館              ⑤むつ市中央公民館              ⑥八戸市立根城公民館

### ○ 図書館

- ①つがる市立図書館      ②三沢市立図書館      ③八戸市立図書館

### ○ 公民館・図書館以外の施設

- ①県立三沢航空科学館      ②十和田市現代美術館      ③十和田市東コミュニティセンター

#### (1) 地域住民の学習活動の支援

##### ① 職員の専門性を生かした講座運営

八戸市立根城公民館の「青年学級」では、一般的に若い世代は公民館を利用することが少ない状況の中で、40歳未満の若い世代を対象とした講座が、40年以上にわたり継続して実施されている。さらに、社会教育ではよく指摘されている「メンバーの固定化」がなく、新しいメンバーが加入し続けている。こうした講座運営には、受講生のニーズを把握する力や受講生の主体性を喚起する力が高い職員が携わっており、長年にわたってノウハウを蓄積し、専門性を生かした運営を行っている。

##### ② 中央館による地区館等の講座運営のサポート

青森市中央市民センターでは、地域活動の実践者や地域活動に知見のある者を生涯学習推進員として配置し、市内の市民センター10施設に定期的に派遣することで、講座の企画・実施や講師の紹介などのサポートを行っている。

#### (2) 学びへの参加のきっかけづくりの推進

##### ① 楽しさをベースにした学びや気軽に立ち寄れるスペースの提供

むつ市中央公民館の「Co-Minkan 館長になる塾」では、受講者が講座を運営するスキルを身に付けるとともに、受講者自身が楽しいと思える地域活動を企画・実践している。

また、つがる市立図書館では、ふた付きの飲み物の持ち込みができたり、ジャズの演奏会を催したりするなど、気軽に楽しみながら施設を利用できるような工夫をしている。

##### ② 幼少期からの施設利用を促進する取組

三沢市立図書館では、子どもたちの多様な興味・関心に応じて、継続的な利用を促進するため、子どもたちが楽しく読書の履歴を記録できる読書通帳を作成している。

八戸市立図書館では、市内の小学校へ職員を派遣してブックトークを実施し、児童の読

書に対する興味や関心を引き出す取組を行っている。

また、十和田市現代美術館では、保育士や幼稚園の教員の意見を取り入れてワークシートを作成し、園児が館内の作品の感想を楽しみながら記入できる工夫をしている。

さらに、つがる市立図書館、三沢市立図書館、八戸市立図書館では、児童生徒を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施しており、上位入賞者を全国コンクールに推薦している。

### ③ 施設の利用者によるSNS等での情報発信

十和田市現代美術館では、作品も含めて、館内での撮影を許可している。施設の利用者には市外からの観光客も多く、作品や活動、イベントの様子等がSNS等で発信されることで、県内外はもとより海外への情報発信にもつながっている。

## (3) 多様な主体との連携・協働

### ① 地域住民との連携・協働

#### ア 地域住民の事業への協力

青森市中央市民センターの障害者を対象とした「青年教室」では、障害者支援に知見や関心のある地域住民が、障害の程度に応じて参加者の活動を長年にわたりサポートしている。

五所川原市中央公民館では、公民館が町内会や子ども会などの地域団体のネットワークの拠点となることで、地域団体による「子どもフェスティバル」等のイベントの企画・運営の支援を行っている。

また、十和田市東コミュニティセンターは、「一本木沢ビオトープ協議会」事務局を担うことで、地元大学等の関係団体をつなぎ、地域住民と一緒に、地域の自然環境を守る取組を推進している。

さらに、十和田市現代美術館では、地域住民や商店街が、作品制作で泊まり込む作家のための宿泊場所の提供や企画展終了後の作品の展示、共同で商品開発を行うなど、美術館と地域の協力関係を地域活性化に生かしながら、美術館のイベントの企画や実施を支えている。

#### イ 多様なボランティアによる支援

六戸町中央公民館では、地元の高校のゴルフ部に所属している高校生が、ゴルフの指導を通じて、放課後子ども教室における活動を支えている。

また、県立三沢航空科学館では、ボランティアガイドを継続して養成し、展示物の解説を行っているほか、県内の多くの図書館では、地域の読み聞かせ団体と連携して、定期的に読み聞かせを実施している。

#### ウ 学習者の学習成果の活用

八戸市立根城公民館では、受講者が企画する「青年学級」の自主講座において、受講生OB・OGが、これまでの学習成果を生かして受講生の企画をサポートしている。

## ② 首長部局との連携・協働

### ア まちづくり施策の推進

八戸市立図書館では、八戸市が「本」をテーマにまちづくりを推進する「本のまち八戸事業」の一環として、赤ちゃんに読み聞かせと絵本を提供する「ブックスタート事業」等、首長部局と連携した取組を実施しており、図書館が、多くの地域住民が交流する情報拠点としての役割に加え、首長部局の多様な取組に地域住民をつなぐ役割を果たしている。

### イ 福祉部局との連携による社会的困難を抱える人への支援

五所川原市中央公民館では、発達障害の子どもとその保護者を対象に「ハートネットを作ろう！ちょっと気になる子への支援事業」を実施しており、福祉部局と連携して、乳幼児の健康診断の際の事業の周知や発達障害に関する学習会等を行い、不安や悩みを抱える保護者が気軽に参加、相談できる場を提供している。

## ③ 民間団体との連携・協働

### ア 民間団体の専門性や継続性を生かした講座の提供

五所川原市中央公民館の発達障害の子どもとその保護者を対象とした事業では、地域の多様な民間団体が、障害者支援に関する専門知識や技術、団体間の連携を生かして、農業体験やスポーツ教室の場を提供する等、継続的に講座の運営を支えている。

### イ 多様な学びの機会の提供

県立三沢航空科学館では、指定管理者として参画する複数の民間企業や団体が、それぞれの強みを生かして、地域の多様な団体と連携することで、自然体験や創作活動などの多様な学びの機会を提供し、集客の増加に結びつけている。

## ④ 学校教育との連携・協働

### ア 学校と連携した事業の実施

青森市浪岡野沢公民館では、地域の小学校と連携して、地域住民の学習成果発表の場である公民館祭りと小学校の学習発表会を共同開催している。例年、多くの地域住民が会場である小学校に足を運び、地域住民の交流・親睦の場となっている。

### イ 学校と地域をつなぐ取組の推進

県立三沢航空科学館では、指定管理者が有する様々な地域における連携関係を生かして、学校と地域の企業・団体をつなぎ、より効果的に学校におけるキャリア教育や体験活動の支援を行っている。

## (4) 施設面での課題への対応

### ① 職員の創意工夫を生かした施設設備の活用

青森中央市民センターでは、県内で最も古いプラネタリウムが設置されており、職員が愛着を持って丁寧にメンテナンスを継続するとともに、投影機の操作技術を継承していること、また、上映プログラムを毎月更新するとともに、担当職員が直接解説を行うなどの

特色ある取組により、開館当初から50年にわたって地域住民に利用され続けている。

② アウトリーチサービスの推進

八戸市立図書館では、移動図書館車が、放課後の児童が利用できる時間帯に市内の各地域を巡回している。三沢市立図書館及び八戸市立図書館では、障害者を対象として図書の郵送サービスを実施している。

③ 近隣の施設等との連携による利便性の確保

つがる市立図書館、五所川原市立図書館及び中泊町図書館では、利用者が借りた図書資料を3館いずれの図書館でも返却できるサービスを連携して提供している。

また、青森市浪岡野沢公民館及び十和田市東コミュニティセンターでは、講座やイベントにおいて駐車場が不足する場合には、近隣の施設等の協力を得て駐車場を確保している。

### 3 これからの時代に求められる社会教育施設の役割

#### (1) 学びと活動の循環の拠点

##### ① 楽しく気軽に集える学習活動の促進

本県は、地域社会において、人口減少や高齢化、核家族化、人間関係の希薄化等、様々な課題に直面している。こうした中、公民館には、個人の学習成果を集団学習につなげて、活用することで人々のつながりを深めるとともに、専門性の高い職員による学習計画の立案や様々な学習情報の提供、学習サークル化への援助などを通じて、地域における様々な活動につなげる役割が期待される。さらに、公民館には、地域住民が学習の成果を地域での活動に生かすことで、充実感を味わい、また、新たな課題の解決のために更に学ぼうという「学びと活動の循環」につながっていくような講座運営の工夫が求められる。

今回の実地調査を踏まえると、そうした「学びと活動の循環」の拠点になるためには、まずは「楽しさを基盤とした学び」や「気軽に立ち寄れるスペースの提供」が有効である。

##### ② 熱意と専門性のある職員の育成・確保

楽しく気軽に集える学習活動を促進し、学びと活動の循環をつくるためには、職員による講座の企画運営、様々な学習情報の提供、学習サークル化への援助などに関する職員の熱意と専門性が重要である。例えば八戸市根城公民館のように、職員の専門性のもとで受講者のニーズを的確に把握し、受講者の主体性を喚起していくことが有効であり、職員の力量は事業に大きな影響を与える。

そのため、各施設や職員の中で長年培われてきた経験、知識や技術を職員間で継承することや職員の研修機会の提供等、職員がスキルアップする機会の充実が求められる。さらに、青森市のように中央館による地区館へのサポートも有効である。

また、職員の地域や利用者に対する熱意や真心、地域を支えていくという真摯な態度、地域とのコミュニケーションの積み重ねによる職員自身の人脈やネットワークも重要であり、こうしたことが、各施設の事業実施における多様な主体との連携につながっている。

##### ③ 地域活動・ボランティア活動への支援

現在、多くの施設において、地域住民がボランティアとして、社会教育主事や司書等の社会教育施設の専門的職員とともに主催事業への協力や環境整備等で地域の学習活動を支えており、重要な役割を果たしている。六戸町中央公民館や県立三沢航空科学館の事例はその一例であり、今後も、社会教育施設において、ボランティアの育成やボランティア活動を支援した取組を継続するとともに、地域住民が学びを生かした活動を行うために、施設への多様な関わり方、高校生等の多様な人材による取組も必要である。例えば、八戸市立根城公民館のように、講座修了者が継続して事業に関わることのできる工夫も有効である。

また、施設側にとって、ボランティアの育成には、多くの人員と時間、高いスキルが必要であるため、地域の団体との連携による継続的なボランティアの育成や確保に向けた取組も重要である。

こうした取組によって、地域住民が自己の存在意義を確認し、自己肯定感を高め、生き甲斐や更なる学びにつながることを期待される。

## (2) 多様な人々のニーズに対応した学習機会の充実

### ① 社会的困難を抱える人への支援

これまで、社会教育施設は地域住民の学習ニーズに応えることで、地域における学習活動の中核を担い、地域住民間の絆を築く役割を担うとともに、地域コミュニティの形成にも寄与してきた。

今後は、そういった役割に加え、障害のある人や社会へのつながりを求める若者など、社会的困難を抱える人が、孤立することなく、学びを通して社会に参加できるようにすることが求められている。青森市中央市民センターや五所川原市中央公民館の事例のように、首長部局や教育機関、企業、NPO等の多様な主体との連携を推進し、それぞれの専門性や継続性を講座の運営に生かすことで、社会的困難を抱える人を支援し、そうした人が気軽に参加できる場を提供することが重要である。

### ② 若者の参画の推進

公民館においては、若年層の取り込みが課題となっている施設が多いため、八戸市立根城公民館の「青年講座」の事例のように、若者のアイデアを若者自身が実践していくなど、若者の参加を引き出す工夫が重要である。また、若者を軸とする活動に、より多くの地域住民が関わることで地域が活性化する効果も期待できる。

### ③ 利用しやすい学習環境の整備

地域における学習活動の裾野を広げるためには、より多くの地域住民が利用しやすく、長時間安心して滞在できる空間・場を社会教育施設が提供することが重要である。そのため、高齢者や障害者を含め誰もが利用しやすいように、施設のユニバーサルデザイン化を推進することが求められる。

一方で、様々な状況により施設に足を運ぶことが困難な人への対応としては、アウトリーチ型の取組が有効な手立てとなる。公民館においては、地域の児童館や集会所等を活用した出前講座等の取組、図書館においては、図書の郵送サービスや移動図書館、電子書籍の貸出し等の取組が考えられる。

### ④ 地域住民の学び直しの機会の提供

人生100年時代を迎える中、全ての人が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できるよう、社会人の学び直しの重要性が高まっている。

こうした中、多様な地域団体とのネットワークを持つ公民館が、例えば、自分の適性や能力をより発揮したいと考える若者や子育て世代を対象に、主体的なキャリア形成を支援する学び直しの機会を提供することが考えられる。

## (3) 連携・協働による地域コミュニティの維持・活性化への貢献

### ① 学校と地域の連携・協働の「拠点」としての機能の強化

中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月）では、公民館が地域学校協働活動の拠点としての役割などを強化することが求められると示されている。

県立三沢航空科学館の事例では、博物館が学校の教育活動と地域の企業・団体を結びつける拠点となることで、地域におけるキャリア教育の取組が組織的・継続的に実施されている。同様に、多様な地域団体とのネットワークを持つ公民館が、地域学校協働活動の拠点としての役割を担うことで、学校の教育活動への地域住民の参加促進につながるものと考えられる。また、地域における学習の拠点である公民館が中心となって、学校間の情報共有を進めることで、各学校におけるより効果的な教育活動が期待できる。

## ② 地域住民の交流の「ハブ」（結節点）としての役割の推進

県内の図書館は、地域の情報拠点として多くの地域住民が学ぶ場であるとともに、交流する場ともなっている。また、2000年代に入ってから、図書館には「課題解決型図書館」としての役割が求められるようになり、地域における「知や情報のハブ（結節点）」として、地域課題解決を支援することが期待されている。

八戸市立図書館の事例では、図書館が多くの地域住民が集まる中心施設として、首長部局における各取組に地域住民をつなぐ役割を果たすことで、首長部局のまちづくり施策を促進している。今後は、社会教育施設がそれぞれの特色を生かして、地域の課題解決に資するだけでなく、人々の交流を促進する機能を強化することが期待される。

## ③ 地域における多様な主体との連携

すでに述べたように、学習者の多様なニーズに応える上で、首長部局や教育機関、企業、NPO等の多様な主体との連携の構築が重要であり、それは、地域での多様な学びにつながるだけでなく、施設の講座運営の効率化、担当職員の資質向上、利用者へのきめ細かいサービス等の面でも有効と考えられる。五所川原市中央公民館の取組はその一例となる。

また、まちづくりや地域の課題解決に、熱意をもって取り組んでいる幅広い世代の多様な専門性を持つ人材を、社会教育の活動に巻き込み、連携体制を構築することも重要である。社会教育施設がこうした人材と協働し、資質を備えた職員と施設が有する機能の下で、地域と多様な主体の連携が相乗効果となって、地域を担う人づくりを進めていくことが望まれる。